

来たるべき アート・アーカイブ

大学と美術館の役割

▶日時

2014.11.24

(月・振替休日)

13:30~17:00

(13:00受付開始)

▶会場

国立新美術館 3階 講堂

▶参加無料・事前申込不要

▶定員 180名

▶基調講演

青木 保

(国立新美術館館長)

▶事例発表・パネルディスカッション

石原 友明

(京都市立芸術大学美術学部教授)

加治屋 健司

(京都市立芸術大学芸術資源研究センター准教授)

川口 雅子

(国立西洋美術館情報資料室アソシエイトフェロー)

谷口 英理

(上智大学国際教養学部教授)

林 道郎

(慶應義塾大学アート・センター教授)

渡部 葉子

(五十音順)

▶主催

京都市立芸術大学

芸術資源研究センター

▶問い合わせ先

京都市立芸術大学芸術資源研究センター事務局

TEL・075-334-2231 / FAX・075-333-8533

アート・アーカイブ 来たるべき

大学と美術館の役割

京都市立芸術大学芸術資源研究センターは、学内外の芸術作品や各種資料等を芸術資源として包括的に捉え直し、将来の新たな芸術創造につなげることを目的に、今年4月に発足しました。

近年の美術史研究において、美術作品と図書資料に加え、手稿、エフェメラ（印刷物）、写真、映像などのようなアーカイブ資料の重要性が高まっており、大学や美術館も、その収集や利活用に取り組み始めています。それと同時に、アーカイブは、現代のアーティストにとっても関心の対象となっています。制作のプロセスやアウトプットにおいて、アーカイブ的な要素が登場する作品をめぐる機会は決して少なくありません。研究のためのアーカイブと、創造のためのアーカイブ。ここに、アーカイブの捉え方、芸術大学におけるアーカイブの教育への活用方法の確立という課題があります。

本シンポジウムでは、大学と美術館でアーカイブの活動や研究に携わる専門家を招き、各機関における取組事例の発表とパネルディスカッションを通じて、アート・アーカイブの意義と役割について考察します。

【基調講演】

13:35~13:50

青木 保（あおき たもつ）

「グローバル時代におけるアーカイブと美術館」

国立新美術館館長。大阪大学にて博士号取得（人間科学）。大阪大学教授、東京大学教授、政策研究大学院大学教授等を経て、文化庁長官（2007年4月～2009年7月）。2012年より現職。この間、ハーバード大学客員研究員、パリ社会科学院客員教授等も務めた。1965年以来、東南アジアを中心に文化人類学のフィールドワークに従事。1972～73年バンコクのタイ仏教寺院で僧修行をする。2000年紫綬褒章受章。著書『儀礼の象徴性』（サントリー学芸賞）、『日本文化論』の変容』（吉野作造賞）、『逆光のオリエンタリズム』、『異文化理解』など多数。近著に『作家は移動する』（新書館、2010年）、『文化力』の時代』（岩波書店、2011年）、『文化の翻訳』（東京大学出版会、2010年）などがある。

【事例発表】

13:50~14:50

（五十音順）

石原 友明（いしはら ともあき）

「創造的誤読－制作とアーカイブ」

京都市立芸術大学美術学部油画専攻教授。京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。個展に「美術館へのパッサージュ」（栃木県立美術館、1998年）、「[the imaginary number]」（西宮大谷記念美術館、2004年）、「アウラとエクトプラズム」（MEM、2014年）等。グループ展に「彫刻の遠心力」（国立国際美術館、1992年）、「Vanishing Points: Contemporary Japanese Art」（National Gallery of Modern Art, New Delhi, 2007）、「Trouble in Paradise 生存のエシックス」（京都国立近代美術館、2010年）等。

川口 雅子（かわぐち まさこ）

「美術作品の記録を残すということ－美術館アーカイブズの視点から」

国立西洋美術館情報資料室長。東京藝術大学大学院博士後期課程満期退学。財団法人ボーラ美術振興財団ボーラ美術館学芸員（レジストラー）を経て2003年より現職。文化庁「文化関係資料のアーカイブに関する有識者会議」委員（2014年）。論文に「美術館アーカイブズが守るべき記録とは何か」（『国文学研究資料館紀要 アーカイブズ研究篇』8号、2012年）、「美術館の情報活動に関する一考察」（『国立西洋美術館研究紀要』18号、2014年）等。

谷口 英理（たにぐち えり）

「美術館とアーカイブ－国立新美術館の事例」

国立新美術館学芸課情報資料室アソシエイトフェロー。女子美術大学非常勤講師。東京藝術大学大学院博士後期課程修了。博士（美術）。日本近現代美術史専攻。編著に『美術批評家著作選集15今泉篤男 植村鷹千代』（ゆまに書房、2013年），共著に『美術の日本近現代史 制度・言説・造型』（東京美術、2013年），『幻のモダニスト写真家堀野正雄の世界』（国書刊行会、2012年），『昭和期美術展覧会の研究』（中央公論美術出版、2009年）等。

渡部 葉子（わたなべ ようこ）

「ファジーでフランジアルであり続けること－慶應義塾大学アート・センターの取り組み」

慶應義塾大学アート・センター教授／キュレーター。慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程修了。1987年より東京都美術館学芸員、統いて東京都現代美術館開館に伴い同館学芸員。2006年より現職。論文に「アーカイブと展覧会」（『アルケイア』8号、南山大学史料室、2014年）、「イミ・クネーベル 呵責なき探求者」（『同時代の眼IV 光の在処 イミ・クネーベル』、慶應義塾大学アート・センター、2013年）等。

【パネルディスカッション】

・質疑応答】

15:10~16:55

参加：事例発表者、

加治屋健司

進行：林道郎

林 道郎（はやし みちお）

上智大学国際教養学部教授。コロンビア大学大学院美術史学科博士課程修了。PhD（美術史）。武藏大学人文学部助教授、上智大学比較文化学部助教授、教授を経て、2006年より現職。2013年より学部長。著書に『絵画は二度死ぬ、あるいは死なない』（全7冊、ART TRACE、2003～2009年）。共著にTokyo 1955-1970: A New Avant-Garde（New York: Museum of Modern Art, 2012）等、共編著にFrom Postwar to Postmodern, Art in Japan 1945-1989: Primary Documents（New York: Museum of Modern Art, 2012）。

加治屋 健司（かじや けんじ）

京都市立芸術大学芸術資源研究センター准教授。ニューヨーク大学大学院美術研究所博士課程修了。PhD（美術史）。スミソニアンアメリカ美術館研究員、広島市立大学芸術学部准教授を経て2014年より現職。日本美術オーラ・ヒストリー・アーカイブ代表。共編著にFrom Postwar to Postmodern, Art in Japan 1945-1989: Primary Documents（New York: Museum of Modern Art, 2012）、『中原佑介美術批評選集』全12巻（現代企画室+BankART出版、2011年～）。

◀問い合わせ先▶

京都市立芸術大学

芸術資源研究センター事務局

〒610-1197

京都市西京区大枝沓掛町13-6

TEL: 075-334-2231

FAX: 075-333-8533

○大学ホームページ

<http://www.kcua.ac.jp/>

○芸術資源研究センターホームページ

<http://www.kcua.ac.jp/arc/>

○芸術資源研究センターFacebook

<https://www.facebook.com/kcua.arc>

主催：京都市立芸術大学芸術資源研究センター

